



南風

Kagoshima University Library Bulletin

鹿児島大学図書館報 60号 2003. 3

- 1 大学図書館の目指すもの (尾上義夫)
- 2 Web of Science を利用して(1) (久保田龍二)
- 3 Web of Science を利用して(2) (深川和良)
- 4 Web of Science 利用に関するQ & A (高田宏昭)
- 5 学術コンテンツ・ポータルを紹介 (堀口裕著)
- 7 「玉里文庫の絵図・地図展-絵図に見る幕末日本-」開催 (諸岡静児)
- 9 平成14年度図書館学術文化講演会の開催
- 10 Library News

大学図書館の目指すもの

水産学部分館長 尾上 義夫

大学図書館の使命は、人と知識を結びつけることによって文化的な生活環境を豊かにし、知的発見を助長することにある。知識の探求においては、常に社会が要望する情報を先取りして紹介する。そのため、最新情報通信技術と国際ネットワークを活用して、模範的情報教育社会の創造を目指す。

近年、資料の価格高騰によって、十分な情報資源を学生や教職員に提供することが難しくなっている。そこで、学術情報通信システムを、代替アウトレットを使って学術情報端末に変えるなどの試みがなされている。大学図書館では、有用な伝統的サービスを継承しつつ、社会の多様な意見を反映し、均衡のとれた学際的情報資源の収集を続けることが、これまで以上に重要になっている。

情報へのアクセスは、もはや場所や時間に拘束されることが少なくなってきている。広範な図書形態の選択や各種の送達機構によって、目録、情報機器及びサービス業務などの集中化をはかって、利用者社会の多様な要望にこたえる必要がある。いつでも、どこからでも、大学図書館が利用できるようなれば、大学における教育研究はもとより、生涯学習を志す社会人にとっても大きな手助けになる。学術情報資源の利用パターンが変化し、それがデジタル化すれば、現在のサービス体制や図書の管理方法などの再検討が必要になるだろう。

学術図書は、学生や研究者の要望に呼応して進化し、次世代のために保存されなければならない。大学図書館に収蔵されている伝統的な情報資源として、記録写真又は文書、雑誌、グラフィックアート作品、写本、地図、

モノグラフ、新聞、実物教材、録音(録画)、双書、楽譜などが含まれる。一方、図書の電子化により、学術情報をオンライン上で系統かつ迅速に入手することが可能になった。しかし、電子情報の収集には限界があり、さらに進歩的な情報技術の開発によって、情報提供の拡大をはかる必要がある。大学間での図書の分担収集又は協同収集は、相互に情報資源を共有できる点で経済的といえる。

情報資源の収蔵能力を上げるための予算要求がなされている。この間、情報資源の再配置、可能な場所での統合及び効率化などがはかられてきたが、それでもなお追加的財政支援が必要とされている。不完全な財政出動の下では、非競争的な代償作用を生むことになり、これがさらに人員の削減につながる。このことは、必要な職員の採用を困難にし、情報サービスの低下を招く。また、研究や学習のために有効な情報機器の装備ができなくなる。さらに、財源不足は新しい図書の購入にも悪影響を及ぼす。

大学図書館において、健全な管理・運営を維持していくためには、国の予算配分の増額は不可欠であるが、それを補填するための努力も必要である。個人や団体からの寄付金、政府補助金などは、追加的財源として挙げる事ができよう。

かように、適正な財源の確保、使命と展望をもった予算の編成そして適切な人材の配置は、大学図書館の将来を決定づける重要な課題であるといえる。

(おのうえ・よしお 水産学部分館長、水産学部教授)

Web of Science を利用して (1)

— 時間軸からのひらめき —

久保田 龍二

はじめに、工学部隅田先生らのご尽力と鹿児島大学の全教官の署名運動で、このサービスが利用できるようになり感謝申し上げます。

さて私は、南九州に多い HTLV-I というウイルスでおこる病気の研究をしており、文献検索はほとんどこのことに利用しています。今までは生物医学関連の文献データベースである MEDLINE と他の遺伝子等のデータベースを関連付けた Internet 上のデータベース、PubMed を使っていましたが、Web of Science (WOS) が導入されたので使ってみました。WOS の最大の特徴は、ある論文と別の論文を引用文献でリンクしているという点です。そして引用文献をリレーションして時間軸をいれたことにより、利用者に問題としている研究の流れがわかりやすくなっています。

PubMed はキーワードを中心に検索してある論文に辿り着きます。これを二次情報データとして利用する時、関連文献というところに入って最初の論文に関連した論文のリストを閲覧しますが、時には関連論文が、500 を超えるリストとなってしまい、関連しそうな論文を探すのにかなり時間がかかってしまうことがあります。これはおそらく関連論文のリンクづけが最初の論文中のキーワードを中心に探しているからではないかと思っています。ところが WOS では、最初に基点となる論文の探し方は PubMed とほぼ同じですが、その後が違います。ある論文をあけたら、そこにその論文が引用している論文リストと、その論文を引用している論文リストにアクセスできます。つまり、その論文が根拠としている過去の論文に行けますし、その論文から発展した未来の論文が見つかります。この論文からさらに発展した未来の論文が見つかります。つまりある論文をボトルネックとして過去にも未来にもサーフィンできるわけです。PubMed の関連論文リストがキーワードを中

心としてボーッとしているのに対して、WOS のほうは時間軸があって、ある論文を基点として、扱っているテーマが拡散しているのか、収斂しているのかがわかります。例えば、IL-2R の抗体で上記のウイルスで起こる病気の治療を研究した1998年の論文を基点として、引用している論文を辿って行くと IL-15R 抗体でも、病気に関与していると推定される細胞を抑制するという2001年の論文にぶつかります。さらにその論文を引用している論文リストの中から、IL-2 や IL-15 を分泌する調節性の T リンパ球が病気に関与する細胞を抑制するという2002年の論文に出会ったりします。それじゃ、この調節性の T リンパ球の機能を調節したらどうなるのだろうかなどと、ひらめきが広がります。PubMed では最初のキーワードにかなり拘束された世界を歩き回り時に迷子になったりするのですが、このように WOS では未来に向けた発展性のある世界に辿り着くことがあります。ですから PubMed は過去の研究背景の情報集めに、WOS はこれからのひらめきに主に使えそうです。

以上 WOS を使用してみた印象を述べましたが、おまけとして、自分の論文が、何回、どんな形で、誰に引用されているのか、つまり世界にどのくらいインパクトを与えているのかということもわかります。蛇足ですが、インパクトファクターが高い雑誌に載っていてもほとんど引用されていない論文もあり、インパクトファクターは決してその論文の正確な評価とはならず、雑誌のランクづけなんだな (したがって論文投稿先の目安にはなる) と WOS でわかりました。

(くぼた・りゅうじ 医学部助手・内科学第三)

Web of Science を利用して (2)

— 研究活動の効率化と新たな発見 —

深川 和良

私が大学4年生の時に研究室に配属されて研究活動を始めてから10年弱が経とうとしています。この間、民間企業での研究・開発に携わった期間も含め幾度となく文献調査を行ってまいりました。研究活動を始めたばかりのころは、指導教官から渡された文献をただ理解していただけでした。ある程度研究を進めていくと自分で文献を調査する必要にせまられるわけですが、当初は慣れてないこともあり、まず学内に雑誌があることを確認してから必要な文献を見つけるまでかなり時間が必要だったことを覚えています。

特に専門分野外の文献に関しては自分が把握している数少ないキーワードを手がかりに手当たりしだいに探していく有様で、正に霧の深い山を手探りで登っていくようでした。さらに民間企業では大学での専門分野とは異なった分野に関する研究・開発を行っていた上に、時間の制約が非常に厳しくこの文献調査が終われば仕事は半分以上終えたような感じさえありました。

一方、私の研究室では8年ほど前からネットワーク環境が整い、インターネットを利用できるようになりました。当初は興味半分がよくキーワードを入力して有益な情報、あわよくば文献が見られないものかとパソコンに向かっていたものでした。この当時はインターネットに関して知識は皆無だったのですが、情報を得る手段として何かしらの期待を抱いていたのでしょう。しかし、今現在その期待していたものが現実に利用できる環境になりつつあります。それはこの度導入された「Web of Science」です。

「Web of Science」は、幾つかのキーワードから該当する文献を主要な複数の雑誌から検索することが可能です。さらに契約されている電子ジャーナルについてはフルテキストで文献を見ることも、ファイルとしてダウンロード

することもできます。また、その文献が引用した文献、引用された文献についてもリンクがなされ、容易に参照することができます。このような機能から、必要な文献を検索することはもちろん、引用をたどることによって、どのような流れでその研究が行われてきたかがわかります。逆にその論文が他の論文にどのように引用されているかを知ることができます。つまりその論文以後に発表された論文で引用されているものを調査することで、その論文がそれ以後の研究にどれくらいインパクトを与えているかがわかります。また、それ以後研究がどのように発展したかも把握することができます。さらに、論文の引用のリンクをたどることによって今まで見過ごしていた論文や、多分野への応用を発見することができ、このことから新しい研究への展開につながることも期待できます。「Web of Science」の導入によって、文献調査に注いでいた膨大な労力と時間を大幅に削減することができ、研究活動の高効率化がはかられ、また新たな発見を得ることも期待できるようになりました。

このように以前に比べて飛躍的に研究活動の環境が整ってきました。しかしながら、唯一の不満は活用できるデータベースが少ないことです。現状では過去5年分の論文のみ有効に使えますが、それ以前の論文になりますと残念ながら見られません。調査していますとやはり過去5年分のデータではまかないきれないものも出てきます。私自身の欲（おそらくは「Web of Science」を使用しているすべての方と思いますが）を言えばより古い論文まで調査できるような環境になればと思っています。

(ふかがわ・かずよし 理工学研究科博士後期課程 物質生産工学専攻)

Web of Science 利用に関する Q & A

高田 宏昭

図書館では平成14年10月から Web of Science の提供を開始しました。これまでに寄せられた問い合わせのうち、主なものを以下に紹介します。

Q 1 Web of Science とは何ですか？

A 1 米国 ISI 社が提供する引用文献索引データベースです。

世界で影響力が高い約8,800の学術雑誌(主に英語文献)の中から効率よく230以上の学際分野の学術情報を検索することができます。

データベースは、次の3種類あります。

- 1) 「Science Citation Index」自然科学分野、約6,000誌のデータを収録
- 2) 「Social Science Citation Index」社会科学分野、約1,700誌のデータを収録
- 3) 「Art & Humanities Citation Index」人文科学分野、約1,100誌のデータを収録

鹿児島大学では1998年以降のデータについて利用可能です。

Q 2 どのような時に利用するのですか？

- A 2
- 1) ある事柄について書かれた論文を調査したい時
 - 2) ある論文がどの論文を引用しているのか知りたい時
 - 3) ある論文がどの論文(誰)に引用されているか知りたい時
 - 4) ある論文の主題に関連した論文を調査したい時

Q 3 Web of Science と他の文献情報データベースの違いは？

A 3 Web of Science の最大の特徴は、論文の引用関係を調査することができることです。ある論文を見つけたときに、その論文が引用している論文、その論文が引用

されている論文を調べることが可能です。この他、次のような優れた機能を備えています。

- 1) ひとつ以上の引用文献を共有する関連文献を検索・表示できます
- 2) 引用文献から抽出した主題を表すキーワードが付与されています
- 3) 第一著者・共著者全てから引用文献検索が行えます

Q 4 Web of Science は何時でも利用できるのですか？

A 4 Web of Science は学内のネットワーク上のパソコンであれば何時でも利用可能です。

Web of Science への接続は同時接続台数10台となっております。

Q 5 データの追加はどれぐらいの頻度で行われているのですか？

A 5 データの追加は毎週行われています。「SCI」は約18,000件、「SSCI」は約3,000件、「AHCI」は約2,000件のデータが追加されています。

Q 6 Web of Science の検索結果から電子ジャーナルの利用は可能ですか？

A 6 可能です。ただし、鹿児島大学が出版社と利用契約を結んだものに限り、利用できる電子ジャーナルのリストは、図書館ホームページをご覧ください。

Q 7 国内雑誌論文の引用索引データベースはないのですか

A 7 「NACSIS-IR」の中にある「引用文献索引データベース」で検索できます。1992年以降の自然科学分野のデータとなっています。

(たかだ・ひろあき 附属図書館情報サービス課参考調査係長)

学術コンテンツ・ポータルを紹介

堀口 裕著

附属図書館では、これまで電子ジャーナルや二次情報データベース等の導入を進め学術情報の利用環境を整備してきましたが、今後は大学が生産する学術情報を収集、発信していくことも求められてきています。

そのため附属図書館では、平成14年度に国立情報学研究所（NII）の学術コンテンツ・ポータル GeNii（ジーニイ）構築事業の一貫として、研究紀要ポータルと大学情報メタデータポータル（仮称）へのデータ登録を行いました。また、附属図書館においても学術コンテンツ・ポータルの機能について検討しています。

1. ポータルサイト

ポータルサイトは、総合的あるいは特定分野について、利用者がそこを入り口（出発点）として多くの情報やサービスを容易に引き出せるように設計された、利用者の多い公共性の高いWeb サイトのことです。

2. GeNii

GeNii（ジーニイ）は、目録所在情報サービス、情報検索サービス、電子図書館サービス等の各サービスで提供しているコンテンツを始めとした国内外の有用な学術情報資源を連携させ、研究に必要な情報を総合的に利用できる環境を目標として構築が進められている事業です。提供可能となった機能から順次公開しています。

研究紀要ポータル、大学情報メタデータポータル（仮称）ともに平成15年4月に公開予定です。

3. 研究紀要ポータル

研究紀要ポータルでは、全国の各大学等が刊行する研究紀要の論文を総合的に検索し、全文を表示することができます。附属図書館では学内各学部へ研究紀要の電子化希望の調査を行い、著作権等の問題をクリアした13種の研究紀要（192冊）について、NIIに全文電子化を依頼しました。

4. 大学情報メタデータポータル（仮称）

大学情報メタデータポータルは、全国の各大学等がインターネット上で発信している各種学術情報について、総合的に検索することができます。今回、附属図書館では学内教官へ調査を行ない、GeNiiへ提供可能な学内Webサイト上の学術情報作成者の方から、学術情報の概要データを提出してもらい、40件程データ登録しました。情報作成者自身が記述したキーワードや内容説明によりデータを作成していますのでノイズの少ない検索結果が得られると思います。なお、今後新たに作成された学術情報資源につきましても、継続してデータ登録を行なっていきますのでご協力をお願いします。

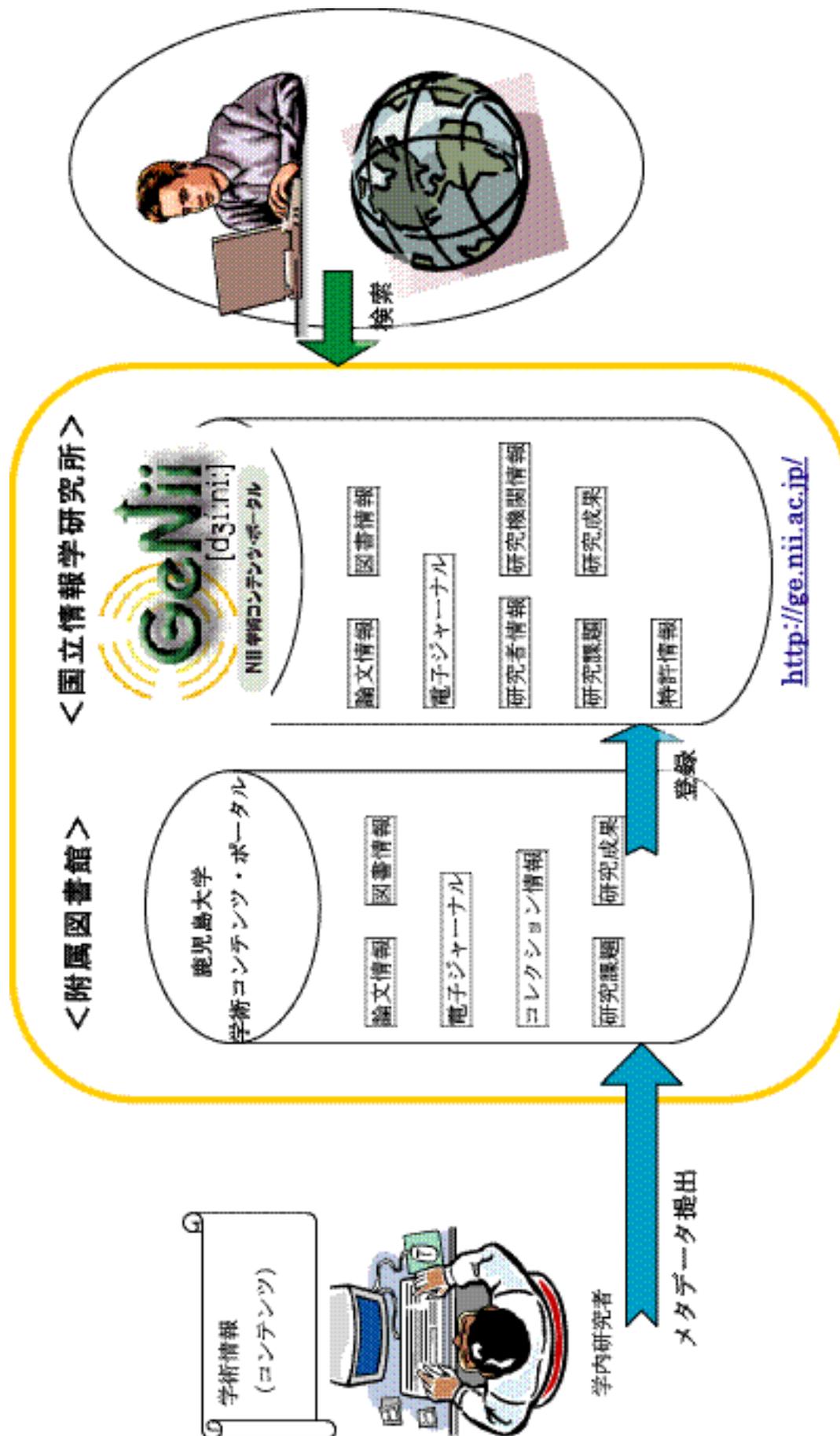
5. 鹿児島大学附属図書館学術コンテンツ・ポータル（仮称）

附属図書館においても独自の学術コンテンツ・ポータルとして、これまでの電子図書館サービスに加えて、学術情報資源、研究紀要、貴重書、論文要旨速報、学術リンク集等のコンテンツの充実と新たな構築を検討中です。

- 1) 学術情報資源と研究紀要については、GeNii登録データに項目等を追加して利用することを検討中です。
- 2) 貴重書については、現在の貴重書データベースを補完する形での貴重書公開展のテーマを軸とした利用しやすいインターフェイスを構築中です。
- 3) 論文要旨速報については、学内教官の論文を雑誌発表前に論文要旨速報データベースとして公開することを検討中です。
- 4) 学術リンク集については、インターネット上の学術的な情報を精選・区分して提供することを検討中です。

附属図書館では今後、学習、研究に必要な情報を総合的に利用できる学術ポータルを目指して、学内関係機関と協議しながら各種コンテンツを作成していく予定です。教官各位のご協力をお願いします。

(ほりぐち・ひろあき 附属図書館情報管理課目録情報係長)



平成14年度(第4回)鹿児島大学附属図書館貴重書公開 「玉里文庫の絵図・地図展—絵図に見る幕末日本—」開催

諸岡 静児

附属図書館では、中央図書館において平成14年10月24日(木)から27日(日)まで、国分市シビックセンター多目的ホールにおいて11月2日(土)から4日(月)まで、鹿児島大学附属図書館貴重書公開「玉里文庫の絵図・地図展—絵図に見る幕末日本—」を開催した。玉里文庫には、およそ30点余の絵図または地図が所蔵されており(この他に、絵図や地図を収めた冊子体の書籍を加えると数は増える)、今回の貴重書公開では一枚物や卷子本の絵図・地図および絵図を含む冊子体の中から、資料価値の高いものを選び出し、その対象とする地域や内容によって、「蝦夷の部」、「海防の部」、「薩摩の部」、「町図の部」、「地球図の部」の5部構成として公開した。

これは大学公開の一環として市民の方々に附属図書館が所蔵する貴重な郷土の文化遺産である「玉里文庫」を一般に公開するために平成11年度からはじめたものであり、今回で第4回を迎えた。

また、貴重書公開開催にあわせて、中央図書館会場では、中山右尚教育学部教授による「江戸の滑稽絵本 悦最眞蝦夷押領の世界」、塚田公彦教育学部教授による「地図あれこれ」、国分市シビックセンター会場では、原口泉法文学部教授による「絵図の中の幕末日本」、日隈正守教育学部助教授による「大隅国正八幡宮に関する一考察」と題する講演会も開催した。

今回の貴重書公開の入場者数は両会場を併せて909名。中央図書館会場で前年比約50%増、国分市会場ではほぼ倍増、両会場で約70%強の増加であった。

増加の要因はいくつかあると思われるが、アンケートの設問「貴重書公開をどのようにして知りましたか」の結果を基に広報活動をとおして増加の要因を考えてみた。今回は、広報活動としていくつかの新たな試みを行っ

た。

1. 例年行っている「学長記者発表」の席上、報道陣にプレ展示を行った。
2. その結果、新聞では4社、テレビでは3社の積極的な報道があった。
3. ポスター掲示は、例年大学等の教育機関、図書館、博物館等の文化機関に主に掲示の依頼を行ってきたが、今回は市電全車両(48両)に10月20日(日)から26日(土)までの1週間「窓吊広告」をした。
4. インターネット展示会として展示会以前にWeb上で公開した。
5. 前年度に来場された鹿児島市内の方々に案内状を送った。

の5つである。

アンケート結果を前年と比べると、新聞(22%→30%)、テレビ(11%→21%)、ポスター(25%→12%)、案内状(0パーセント→5%)、インターネット(0.5%→2%)とポスターを除き増加している。

また、中央図書館会場では、講義の一環として訪れた学生もあり、本学学生の増加が見られた。国分市では教育委員会の方々の熱心な広報活動、国分市のタウン誌「モニターガイド」のイベント案内に掲載されたこと、国分市の文化祭と会期が同じであったことなど、様々な要因があると思うが、何より図書館がより積極的に広報活動を行った結果であると考えられる。

限られた予算の中で広報活動を行う以上、みんなで知恵を出し合いこれからも草の根的な広報活動を行うことが必要であり、貴重書公開を多くの県民の方々に知ってもらうには、報道機関への働きかけも重要であるが、鹿児島大学教職員、市町村教育委員会をはじめ各関係機関の方々の協力を得ることが大切である。

また、展示会場ではこれも今回初めての試みであったが、「特定非営利活動法人（NPO）かごしま探検の会」の方々にご協力をいただき展示史料の解説をしていただいた。入場者の方々には大変好評であり、今後も協力をお

願いできたら良いのではないかと思います。

（もろおか・せいじ 附属図書館情報サービス課資料サービス係長）



平成14年度（第4回）貴重書公開展示史料

No	Cat. No.	資料名	点数	単位	分類
1	363	蝦夷志	1	冊	蝦夷
2	722	北蝦夷図説	4	冊	蝦夷
3	819	蝦夷闔境輿地全図	1	枚	蝦夷
4	392	東西蝦夷 山川地理取調図	30	冊	蝦夷
5	823	房相総武海岸全図	1	枚	海防
6	691	相州浦賀之図	1	折	海防
7	115	三州割拠図（卷子本）	1	卷	薩摩
8	2019	三州割拠図（冊子）	1	冊	薩摩
9	5032	文政五年鹿児島城絵図	1	枚	薩摩
10	523	薩藩名勝志	19	冊	薩摩
11	618	三国名勝図絵	60	冊	薩摩
12	4052	旧二之丸図	1	枚	薩摩
13	190	国分新城絵図	1	枚	薩摩
14	391	江戸絵図	33	冊	町図
15	831	京町絵図見大成	1	折	町図
16	828	御江戸大絵図	1	枚	町図
17	1012	地学正宗図	2	冊	地球図
18	817	地球一覽図	1	枚	地球図
19	41	訂正増訳 采覧異言	14	冊	地球図
20	697	亜墨利伽図説・海防名応接記	1	冊	地球図

平成14年度 図書館学術文化講演会の開催

日時：平成15年2月26日(水) 午後2時～4時

場所：中央図書館5階 AV ホール

図書館では、毎年「学術文化講演会」を開催している。主に学内の学生・教職員及び鹿児島県大学図書館協議会加盟館の図書館職員の方々に参加していただいているが、今年は10数名の一般市民の参加もあり、合計60名の参加者であった。

講師に「編集プロダクション恒人社」の伊藤英治氏をお招きして、「現代出版界を読み解く」と題して講演していただいた。

伊藤氏は、いくつかの出版社の編集者として、幅広い経験と見識のある方で、現代の出版界の実状やこれからの出版界の行方について、エピソードを交えながらの話はユーモアにあふれ、興味の尽きない講演であった。

特に印象に残ったのが、出版点数は年々増

加の一途であるにも関わらず、売上げは低迷が続いており、出版界全体が自転車操業的状况にあること。そのため、出版そのものが、「売るための本づくり」に奔走する危機的状况にあることなど。

また、出版における「紙の消費」が及ぼす地球環境の破壊にまで話しが及んだ。

出版あつての図書館と認識する我々図書館員にとって、深く考えさせられることであった。

今回の講演では、出版の質の向上を追い求めておられる伊藤氏の、編集者として、また出版人としての良識と苦悩を垣間見た思いがした。



Library News

◆ 本学関係者著作寄贈図書

附属図書館では、本学関係者の著作を収集しています。

著作刊行の際は、ご寄贈くださるようお願いいたします。

今回は、次の方々から著書をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。

中央図書館

寄 贈 者	寄 贈 図 書
伊 藤 正 (教育学部教授)	ギリシア滞在記：古代ギリシア史研究と遺跡めぐりの旅 / 伊藤正著 東京：多賀出版，2002.10

桜ヶ丘分館

寄 贈 者	寄 贈 図 書
丸 山 征 郎 (医学部教授)	背広を着た縄文人：縄文から現代における環境変化と人類の病気 / 丸山征郎著 東京：エスアールエル，2003.2

◆ Web サイト上の学術情報の提供をお願いします

図書館では、国立情報学研究所が推進している国内の大学・研究機関等の持つネットワーク上の学術情報資源を対象としたデータベース化の事業に協力して取り組んでいます。作成されたデータベースは、GeNii（国立情報学研究所の学術コンテンツポータル）で公開・提供されます。学術情報のサイトをお持ちの方は情報の提供をお願いします。

（提出要領：<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/portal/>）

◆ Web of Science のサービスを開始しました

Web of Science は米国 ISI 社が提供する引用文献索引データベースです。

世界で影響力が高い約8,800の学術雑誌の中から効率よく学術情報を検索することができます。キャンパス情報ネットワーク上のパソコンから利用できます。

図書館ホームページからご利用ください。

◆ 図書館ガイダンスをご利用ください

中央図書館では、図書館ガイダンスを開催しています。開催予定は図書館ホームページで案内しています。また、グループ、ゼミ単位でのガイダンスの申込みも受け付けます。参考調査係（ext. 7440）へお問い合わせください。

Library News

◆ 文献情報データベースの提供について

図書館では各種データベースを提供しています。現在のサービス状況は次のとおりです。

平成15年度提供データベース一覧

データベース名	分野	収録期間	検索システム	アクセス数	備考
ABI Inform	経営学	1986- 1991	専用ソフト	5	
ASFA (Aquatic Sciences & Fisheries Abstracts)	水産学	1978-	Web	4	
Biological Abstracts	生物学	1988- 2002	Web	1	データ更新なし
Cross - Cultural CD	社会学	***	Web	8	
ERIC	教育学	1966-	Web	1	
Index to Legal Periodicals & Books	法律学	1981-	Web	1	
MathSci	数 学	1940-	Web	制限なし	
MLA International Bibliography	言語学	1981-	Web	1	
PsycINFO	心理学	1887-	Web	制限なし	
Web of Science	総 合	1998-	Web	10	
医学中央雑誌	医 学	1987-	Web	12	
大宅壮一文庫雑誌記事索引	総 合	1988- 2000	専用ソフト	5	
雑誌記事索引	総 合	1975-	Web 専用ソフト	***	Web (1975-) 専用ソフト (1975- 2002)
NACSIS- IR で提供の各種 DB	総 合	***	Web	***	雑誌記事索引DB を含む

平成14年度でサービスを中止したデータベース一覧

データベース名	分野	備 考
AGRICOLA	農 学	
Applied Science & Technology Index	工 学	
Current Contents : Life Science, Clinical Medicine	生命科学 臨床医学	
Medline	医 学	ネット上の無料DBを利用できます

Library News

◆ 電子ジャーナルサービスについて

図書館のホームページから電子ジャーナルを利用できます。

平成15年度提供電子ジャーナルサービス一覧

サービス名	出版社等	更新状況	対象雑誌数
Science Direct	Elsevier Science	継続	1,700
Synergy	Blackwell	継続	529
Wiley- Interscience	John Wiley	継続	439
Link	Springer	継続	422
NACSIS- ELS	国立情報学研究所	継続	***
Lex/DB	TKC	継続	***
Nature	Nature Publ.	新規	1
Science	American Assoc. Adv.	新規	1
CSLSP-e	IEEE Computer Society	新規	19

☆雑誌リストは図書館ホームページをご覧ください

◆ Web 版新聞データベースのサービスを開始します

平成15年4月から2誌のWeb 版新聞DBのサービスを開始します。

キャンパス情報ネットワーク上のパソコンから利用できます。

図書館ホームページからご利用ください。

データベース名	収録期間	アクセス数
Digital News Archives for Libraries (朝日新聞記事データベース)	1984.8- 当日分	1
毎日 News パック (毎日新聞記事データベース)	1987.1- 当日分	1

編集後記

水産学部分館長を8年間務められた尾上先生がこの3月定年退官されます。長年のご苦勞に心より感謝します。先生の図書館への想いを当号に綴っていただきました。

また、「Web of Science」関連の記事については、予算要求の援護になればと願っています。(編集子M)